



令和5年下関市表彰 **福岡國博さん**

下関の児童館には、木のおもちゃがたくさんあります。おかげで子どもたちはみ～んなニコニコ笑顔。なんとこのおもちゃ、一つ一つ手作りなのです。



▲初めて児童館に寄贈した作品。子どもたちが遊べるようにと、作品は置き物からおもちゃへ。

修理品はないですか？

児童館に現れた、穏やかな表情のおじいちゃん。子どもたちが遊んで壊れてしまったおもちゃがないか、尋ねているようです。おもちゃの修理屋さんでしょうか？

児童館にある、たくさんのおもちゃ。市が用意した物もありますが、それだけではありません。今から5年前、ある人が、手作りのおもちゃの寄贈を始めたのです。

おもちゃを作っているのは、自営で住宅設備の仕事をしている福岡國博さん。子どもの頃から手先が器用で、工作が

**おもちゃから生まれる
たくさん笑顔**

好きだったそうです。

福岡さんが初めて訪ねてきた時のことを、児童館「ひこまる」の職員は、こう振り返ります。

「手作りの作品を持った方が突然来られたんです。ありがたく頂くと、次の週も、その次の週も持って来てくださって。壊れたら修理もしてくださいますし、とても助かっています」

感謝の気持ちを形に

福岡さんが木のおもちゃを作るようになったきっかけ。それは、40年間勤めた消防団引退を機に、お世話になった方へ、作品を作って贈ろうと考えたことでした。

題材は、火消しのシンボルである纏マタリ。「消防団の大会で東京に行った時に、浅草の商店街で売られていたのを見て、ひらめきました」と、福岡さん。材料に選んだのは、余った水道管の部品。木の部分は、知人からもらった廃材を使いました。



Linked Instagram インスタグラム

市報×インスタグラム連動企画
フォロワーの皆さんが投稿した下関
の魅力が伝わる写真をご紹介します



♡ 👤 @kitsunedanさん



♡ 👤 @michi_kusaさん



♡ 👤 @taki_ymgcさん

The Largest Blowfish Handing In Japan



▶ 寄贈したおもちゃは300個を超えました。



◀ 子どもたちに大人気の福岡さんのおもちゃ。遊んで壊しちゃっても、大丈夫。



▶ 自宅の裏にある福岡さんの工房。設計図は福岡さんの頭の中。

それから、太鼓の置き物を作って「平家踊りを受け継ぐ子の会」が活動する本村小学校に寄贈。校長室で置き物を見た来校者たちが、話に花を咲かせたそうです。

そして、その当時の校長が退職後、児童館勤務となったのをきっかけに、福岡さんは児童館に作品を寄贈することを思い付きます。「子どもにあげるなら置き物よりも乗り物、遊べるおもちゃがいいな」

アイデアは意外にも

たくさん作品を生み出す豊富なアイデアは、一体どこから来るのでしょうか？

「実はインターネットです。

いろいろな作品を見て、参考にさせてもらっています」

暇を見つけてはパソコンに向かい想像を巡らせるという福岡さん。

「自分が作った物で喜んでくれるとうれしいですね。他人であっても、子どもはかわいいものです」

福岡さんが作った、たくさんのおもちゃ。そこからあふれるのは、もっとたくさんの子どものたちの笑顔。

今では3つの児童館に寄贈するようになり、1つのおもちゃを3つずつ作るのだとか。

「おかげで3倍忙しくなりましたよ」と、福岡さんはうれしそうに笑います。

Editor's note

編集後記

◆二十歳を祝う会で撮影にご協力くださいました皆さま、ありがとうございました。西村
◆狩野芳崖人生すごろくに掲載している悲母観音、1つは狩野芳崖の日本画を模写して作られた織物なんです。光で劣化するので、あまり公開されない貴重な織物。必見です。廣野
◆大好きな物作りで、地域の子供たちが笑顔になって、またそれがうれしい。頭の中の設計図もさることながら、心の中も素晴らしいです。宮村